

現代に生きる

故事ことわざ辞典

現代に生きる

故事ことわざ辞典

宮腰賢編

旺文社



## はじめに

凝縮した表現に人が生きてゆくうえでのさまざまな教えを豊かに含みもつ故事・ことわざの類は、古くから人々に親しまれ用いられてきました。故事の多くは中国の古い書物に由来するものであり、ことわざは民衆の間にだれ言うことなく語り伝えられてきたものでありますが、漢籍に親しむことが少なくなり、また、三世代の者が一つ屋根の下で暮らすことが少なくなった今日では、若い世代の人々にとって耳遠く感じられるものも多くなっています。

生活環境のめまぐるしい移り変わりによって、忘れられ用いられなくなるもののあることは当然でありますが、故事・ことわざの類には、今日も、この世に生きるうえでのさまざまな知恵を与え、言語生活を豊かにしてくれるものが少なくありません。

本書は、慣用句・金言を含め、現代に生きる故事・ことわざの類、三六〇〇句を厳選し、その意味用法を詳しく解説したものであります。必要に応じて、例文・類句・対句などを掲げ、また、注意事項・参考事項を付け加えました。

本書が、幸い広く迎えられ、豊かな言語生活に役立てていただければ、これに過ぎる喜びはありません。

なお、本書の執筆には、読んで楽しめる例文と心がけてくださった片桐大自氏をはじめ、石井正己・井上久美・大内善一・大久保晴雄・大野邦男・倉田実・島崎真人・島田良夫・馬場光子・藤田昌弘・山田繁雄の諸先生、付録での石井正己・佐藤憲正氏のお力をお借りしました。編集・校正に日夜奮闘くださった編集部の方々へのお礼とともども、記してお礼申し上げます。

一九八三年九月

# この辞典のきまりと使い方

## 〔1〕 見出し語句について

現代社会に生きている故事・ことわざのうち、中学生から一般社会人にいたる各層の日常生活において、使用度の高いと思われるものを中心に、慣用句・金言をも含め、約三六〇〇語句を厳選した。

(1) 五十音順によって配列した。

(2) 見出し語句のうち典故が明確なものは、典故として書名を掲げ、詩などについては、作者名も併記した。

(3) 同一の意味をもちながら、表現の異なる語句が二つ以上ある場合は、使用度の多いほうを解説し、他方は↓で、その語句を参照するようにした。

## 〔2〕 解説について

(1) 全く異なる意味や反対の意味が二つ以上ある見出し語句は、①②……というように分けて解説した。

(2) 用法上、特に注意すべき見出し語句は、「」内に注意点を記載した。

(3) 西洋のことわざなどに由来する見出し語句については、それがイギリスなど英語圏のものには、原文(英文)を掲げた。また、英語圏以外のものにも参考までに、英文による表現を掲げた。

(4) 聖書に由来する見出し語句は、典故を示した上で、英文による表現を掲げた。

(5) 参考までに「」内に掲げた漢文の書き下し文と古文は、振り仮名も含めてすべて歴史的仮名づかいによった。

(6) 原則として、常用漢字以外の漢字および固有名詞には、現代仮名づかいによる振り仮名をつけた。

## 〔3〕 例文について

見出し語句の理解を助ける上で必要と思われるものは、日常生活で実際に使われる場面を想定して、できる限り多くの例文を掲げた。

〔4〕 類句について

(1) 見出し語句と意味が類似した語句は、**類**の欄に掲げた。

(2) 見出し語句について、西洋に類句と認められるものがある場合には、英文を掲げ、日本語の訳文をつけた。

〔5〕 対句について

見出し語句と意味が反対の語句および対応する語句を、**対**の欄に掲げた。

〔6〕 別表現、読み方・書き方の注意点

▽の欄に、見出し語句と言い回しの異なる表現、および読み方・書き方の注意点を記載した。

〔7〕 参考記事について

(この辞典のきまりと使い方)

**図**の欄に、見出し語句に関連する参考記事、故事の由来などを記載した。

〔8〕 囲み記事について

身体の部分に関する慣用句のうち、日常よく使われるものをそれぞれまとめ、五十音順の配列に従って該当ページに掲げた。ただし、**額・臍・ほった・眉・指**に関するものは、便宜上、一三九ページにまとめて掲載した。

〔9〕 テーマ別索引について

利用の便を図って、テーマ別に分類した索引を設けた。配列は、テーマおよび見出し語句とも、それぞれ五十音順とした。

〔10〕 巻末付録について

巻末に付録として次の項目を掲げた。

- (1) 世界の名言・名句
- (2) 江戸・京・中京対照いろはがるた
- (3) 主要出典（および人名）解説

# テ ー マ 別 索 引

## 愛 情

|              |    |              |    |
|--------------|----|--------------|----|
| 愛して其の恵を知る    | 一六 | 恋は曲者         | 一五 |
| 秋風が立つ        | 三  | 恋は思案の外       | 一七 |
| 秋の扇          | 三  | 鞘当て          | 一七 |
| 痘痕も驚         | 三三 | 千里も一里        | 三三 |
| 磯の鮑の片思い      | 四四 | 夢食う虫も好き好き    | 三六 |
| 男心と秋の空       | 八  | 鳴かぬ蛩が身を焦がす   | 三六 |
| 及ばぬ恋の滝登り     | 六〇 | 惚れた腫れたは当座の内  | 三六 |
| かわいさ余って憎さが百倍 | 一四 | 惚れた病に薬なし     | 三六 |
| 恋に上下の隔てなし    | 一五 | 惚れた欲目        | 三六 |
| 恋の遺恨と        | 一五 | 惚れて通えば千里も一里  | 三六 |
| 食べ物の遺恨は恐ろしい  | 一五 | 木本に勝る末木なし    | 三六 |
| 恋は思案の外       | 一七 | 焼け木杵には火がつき易い | 三七 |
| 鞘当て          | 一七 | 落花流水の情       | 四二 |
| 千里も一里        | 三三 | 飲食・酒         | 五七 |
| 夢食う虫も好き好き    | 三六 | いやいや三杯       | 五七 |
| 鳴かぬ蛩が身を焦がす   | 三六 |              |    |
| 惚れた腫れたは当座の内  | 三六 |              |    |
| 惚れた病に薬なし     | 三六 |              |    |
| 惚れた欲目        | 三六 |              |    |
| 惚れて通えば千里も一里  | 三六 |              |    |
| 木本に勝る末木なし    | 三六 |              |    |
| 焼け木杵には火がつき易い | 三七 |              |    |
| 落花流水の情       | 四二 |              |    |

|              |    |              |    |
|--------------|----|--------------|----|
| 飢えては食を摂はず    | 九  | 瓜の皮は大名に剥かせよ  | 九  |
| 柿の皮は乞食に剥かせよ  | 九  | お神酒あがらぬ神はない  | 六八 |
| お神酒あがらぬ神はない  | 六八 | 駆けつけ三杯       | 六八 |
| 駆けつけ三杯       | 六八 | 嘉肴有りて雖も食わずんば | 九  |
| 嘉肴有りて雖も食わずんば | 九  | 其の旨きを知らず     | 九  |
| 其の旨きを知らず     | 九  | 食い物のあるのに鉄砲汁  | 一三 |
| 食い物のあるのに鉄砲汁  | 一三 | 董酒山門に入るを許さず  | 一四 |
| 董酒山門に入るを許さず  | 一四 | 下戸の建てた蔵はない   | 一四 |
| 下戸の建てた蔵はない   | 一四 | 下戸の手剛        | 一四 |
| 下戸の手剛        | 一四 | 恋の遺恨と        | 一五 |
| 恋の遺恨と        | 一五 | 食べ物の遺恨は恐ろしい  | 一五 |
| 食べ物の遺恨は恐ろしい  | 一五 | 好物に祟りなし      | 一五 |
| 好物に祟りなし      | 一五 | 五臓六腑に沁みわたる   | 一六 |
| 五臓六腑に沁みわたる   | 一六 | 子持ち二人扶持      | 一六 |
| 子持ち二人扶持      | 一六 | 魚は厭嫌に焼かせよ    | 一六 |
| 魚は厭嫌に焼かせよ    | 一六 | 餅は乞食に焼かせよ    | 一六 |
| 餅は乞食に焼かせよ    | 一六 | 酒なくて何の己が桜かな  | 一七 |
| 酒なくて何の己が桜かな  | 一七 | 酒は憂いの玉帯      | 一七 |
| 酒は憂いの玉帯      | 一七 | 酒は飲むとも飲まるな   | 一七 |
| 酒は飲むとも飲まるな   | 一七 | 酒は飲むべし飲むべからず | 一七 |
| 酒は飲むべし飲むべからず | 一七 | 酒は百毒の長       | 一七 |
| 酒は百毒の長       | 一七 | 酒は百毒の長       | 一七 |
| 酒は百毒の長       | 一七 | 酒は本心の現す      | 一七 |
| 酒は本心の現す      | 一七 | 上戸に餅下戸に酒     | 一七 |
| 上戸に餅下戸に酒     | 一七 | 上戸の手弱        | 一七 |
| 上戸の手弱        | 一七 | 上戸は毒を知らず     | 一七 |
| 上戸は毒を知らず     | 一七 | 下戸は薬を知らず     | 一七 |
| 下戸は薬を知らず     | 一七 |              |    |

|               |    |               |    |
|---------------|----|---------------|----|
| 空き腹にまづい物なし    | 三〇 | 膳部揃うて箸を取れ     | 三〇 |
| 膳部揃うて箸を取れ     | 三〇 | 即時一杯の酒        | 三〇 |
| 即時一杯の酒        | 三〇 | 鯛も一人はうまからず    | 三〇 |
| 鯛も一人はうまからず    | 三〇 | 茶腹も一時         | 三〇 |
| 茶腹も一時         | 三〇 | 亭主三杯客一杯       | 三〇 |
| 亭主三杯客一杯       | 三〇 | 沉醉            | 三〇 |
| 沉醉            | 三〇 | 奢にも非時にも外れる    | 三〇 |
| 奢にも非時にも外れる    | 三〇 | 泥鰌汁に金鏢        | 三〇 |
| 泥鰌汁に金鏢        | 三〇 | 生酔い本性違わず      | 三〇 |
| 生酔い本性違わず      | 三〇 | 馬鹿の三杯汁        | 三〇 |
| 馬鹿の三杯汁        | 三〇 | 腹八分目に医者要らず    | 三〇 |
| 腹八分目に医者要らず    | 三〇 | 腹も身の内         | 三〇 |
| 腹も身の内         | 三〇 | 人酒を飲む酒を飲む     | 三〇 |
| 人酒を飲む酒を飲む     | 三〇 | 酒人を飲む         | 三〇 |
| 酒人を飲む         | 三〇 | 美味も喉三寸        | 三〇 |
| 美味も喉三寸        | 三〇 | ひもじい時にまづい物なし  | 三〇 |
| ひもじい時にまづい物なし  | 三〇 | 昼九夜八船六        | 三〇 |
| 昼九夜八船六        | 三〇 | 河豚食う馬鹿河豚食わぬ馬鹿 | 三〇 |
| 河豚食う馬鹿河豚食わぬ馬鹿 | 三〇 | 忘憂の物          | 三〇 |
| 忘憂の物          | 三〇 | 酔い醒めの水は甘露の味   | 三〇 |
| 酔い醒めの水は甘露の味   | 三〇 | 酔って本性現す       | 三〇 |
| 酔って本性現す       | 三〇 | 林間に酒を暖めて紅葉を焼く | 三〇 |
| 林間に酒を暖めて紅葉を焼く | 三〇 | 運・不運          | 三〇 |
| 運・不運          | 三〇 | 開いた口へ牡丹餅      | 三〇 |
| 開いた口へ牡丹餅      | 三〇 | 一富士二鷹三茄子      | 三〇 |
| 一富士二鷹三茄子      | 三〇 | 一陽来復          | 三〇 |
| 一陽来復          | 三〇 |               |    |

|                |    |                |    |
|----------------|----|----------------|----|
| 犬一代に狸一匹        | 三〇 | 犬も歩けば棒に当たる     | 三〇 |
| 犬も歩けば棒に当たる     | 三〇 | 有卦に入る          | 三〇 |
| 有卦に入る          | 三〇 | 運根鈍            | 三〇 |
| 運根鈍            | 三〇 | 運は天にあり         | 三〇 |
| 運は天にあり         | 三〇 | 運否天賦           | 三〇 |
| 運否天賦           | 三〇 | 追風人に帆を上げる      | 三〇 |
| 追風人に帆を上げる      | 三〇 | 思い立ったが吉日       | 三〇 |
| 思い立ったが吉日       | 三〇 | 果報は寝て待て        | 三〇 |
| 果報は寝て待て        | 三〇 | 孔子も時に遇わず       | 三〇 |
| 孔子も時に遇わず       | 三〇 | 死生命有り          | 三〇 |
| 死生命有り          | 三〇 | 人事を尽くして天命を待つ   | 三〇 |
| 人事を尽くして天命を待つ   | 三〇 | 棚から牡丹餅         | 三〇 |
| 棚から牡丹餅         | 三〇 | 富貴天に在り         | 三〇 |
| 富貴天に在り         | 三〇 | 牡丹餅で腰打つ        | 三〇 |
| 牡丹餅で腰打つ        | 三〇 | 命は天に在り         | 三〇 |
| 命は天に在り         | 三〇 | 命を知る者は巖窟の下に立たず | 三〇 |
| 命を知る者は巖窟の下に立たず | 三〇 | 夢に牡丹餅          | 三〇 |
| 夢に牡丹餅          | 三〇 | 渡りに舟           | 三〇 |
| 渡りに舟           | 三〇 | 男・女            | 三〇 |
| 男・女            | 三〇 | 東男に京女          | 三〇 |
| 東男に京女          | 三〇 | 一押し二金三男        | 三〇 |
| 一押し二金三男        | 三〇 | 色の白いは七難隠す      | 三〇 |
| 色の白いは七難隠す      | 三〇 | 氏なくして玉の輿       | 三〇 |
| 氏なくして玉の輿       | 三〇 | 男は度胸女は愛嬌       | 三〇 |
| 男は度胸女は愛嬌       | 三〇 | 男やもめに娘がわき      | 三〇 |
| 男やもめに娘がわき      | 三〇 | 女やもめに花が咲く      | 三〇 |
| 女やもめに花が咲く      | 三〇 | 鬼も十八番茶も出花      | 三〇 |
| 鬼も十八番茶も出花      | 三〇 |                |    |

女賣しうして牛を売り損なう……………六六  
 女三人奇れば森しい……………六六  
 女ならでは夜が明けぬ……………六六  
 女の髪に毛には大衆も驚がる……………六六  
 女は三界に家なし……………六六  
 解語の花……………六六  
 木仏金仏石仏……………六六  
 義理と憐れは欠かれぬ……………六六  
 緊纏一番……………六六  
 外面似香薩内心如夜叉……………六六  
 小股が切れ上がる……………六六  
 三従……………六六  
 三十振袖四十島田……………六六  
 丈夫涙無きに非ず……………六六  
 離別の間に涙がず……………六六  
 女子と小人は養ひ難し……………六六  
 据え膳食わぬは男の恥……………六六  
 立てば芍薬座れば牡丹……………六六  
 歩く姿は百合の花……………六六  
 男子の一言金鉄の如し……………六六  
 男子家を出ずれば七人の敵あり……………六六  
 男女七歳にして席を同じうせず……………六六  
 沈魚落雁……………六六  
 遠くて近きは男女の仲……………六六  
 万緑叢中紅一点……………六六  
 美人は言わねど隠れなし……………六六  
 美人薄命……………六六  
 牝鶏晨す……………六六  
 巫山の夢……………六六  
 見目は果報の基……………六六  
 明眸皓齒……………六六  
 目病み女に風邪ひき男……………六六  
 蕩で束ねても男は男……………六六

親子・家庭

秋茄子線に食わすな……………三三  
 後前息子に中娘……………三三  
 甘い子に甘草……………三三  
 家貧しくして孝子頼る……………三三  
 石に布団は着せられぬ……………三三  
 一姫二太郎……………三三  
 いつまでもあると思うな親と金……………三三  
 打たれても親の杖……………三三  
 生みの親より育ての親……………三三  
 瓜の蔓に茄子はならぬ……………三三  
 親思う心にまさる親心……………三三  
 親子の仲でも金銭は他人……………三三  
 親子は一世……………三三  
 親に目なし……………三三  
 親の甘茶が毒となる……………三三  
 親の意見と茄子の花は……………三三  
 千に一つも無駄はない……………三三  
 親の意見と冷や酒は後で利く……………三三  
 親の因果が子に報いる……………三三  
 親の恩は子で送る……………三三  
 親の心子知らず……………三三  
 親の腰を噛む……………三三  
 親の光は七光……………三三  
 親の欲目……………三三  
 親罵鹿……………三三  
 親はなくとも子は育つ……………三三  
 負わず借らずに子三人……………三三  
 温清定省……………三三  
 女三人あれば身代が潰れる……………三三  
 乳母日傘……………三三  
 蛙の子は蛙……………三三

垣堅くして犬入らず……………六六  
 家書万金に抵る……………六六  
 かわいい子には旅をさせよ……………六六  
 兄弟は他人の始まり……………六六  
 孝行のしたい時分に親はなし……………六六  
 孝は百行の本……………六六  
 小姑一人は鬼千匹に当たる……………六六  
 子宝腰が細る……………六六  
 子供の喧嘩に親が出る……………六六  
 子供は風の子……………六六  
 子の心親知らず……………六六  
 子は三界の首枷……………六六  
 子養わんと欲すれども親待たず……………六六  
 子故に迷う親心……………六六  
 子を知るは父に若くは莫し……………六六  
 子を見ること親に如かず……………六六  
 子を持つて知る親の恩……………六六  
 三人子持ちは笑うて暮らす……………六六  
 獅子の子落とし……………六六  
 児孫の為に美田を買わず……………六六  
 舐慣の愛……………六六  
 掌中の珠……………六六  
 身体髪膚之を父母に受く……………六六  
 親は泣き寄り他人は食い寄り……………六六  
 子の食より子は宝……………六六  
 総領の基六……………六六  
 袖の下に回る子は打たれぬ……………六六  
 足らぬ余らず子三人……………六六  
 父の恩は山よりも高く……………六六  
 母の恩は海よりも深し……………六六  
 血は水よりも濃い……………六六  
 龍愛昂じて尼になす……………六六  
 虎は千里を行って千里を帰る……………六六

学問・知識

一文字千金……………六六  
 一日再び晨なり難し……………六六  
 一日一字を学べば三百六十字……………六六  
 一知半解……………六六  
 衣鉢を伝う……………六六  
 韋編三絶……………六六  
 殷鑒遠からず……………六六  
 円木警枕……………六六  
 負うた子に……………六六  
 教えられて浅瀬を渡る……………六六  
 教うるは学ぶの半ば……………六六  
 下学上達……………六六  
 学者の取った天下なし……………六六  
 学者貧乏……………六六  
 格物致知……………六六  
 学問に王道なし……………六六  
 嘉肴有りて雖も食わずんば……………六六  
 其の旨きを知らず……………六六  
 下問を恥じず……………六六  
 幼学院の雀は蒙求を囀る……………六六

|               |    |
|---------------|----|
| 汗牛充棟          | 一五 |
| 眼光紙背に徹す       | 一五 |
| 機に因りて法を説け     | 一五 |
| 驥尾に付す         | 一六 |
| 笈を負う          | 一六 |
| 曲学阿世          | 一六 |
| 虚にして往き実にして帰る  | 一六 |
| 勤勉は成功の母       | 一六 |
| 愚者の百行より智者の居眠り | 一六 |
| 警歎に接す         | 一六 |
| 螢雪の功          | 一六 |
| 口耳の学          | 一六 |
| 尽く書を信ずれば      | 一六 |
| 則ち書無きに如かず     | 一六 |
| 三人行えば必ず我が師あり  | 一六 |
| 三人寄れば文殊の知恵    | 一六 |
| 少年老い易く学成り難し   | 一六 |
| 人生字を識るは憂患の始め  | 一六 |
| 盛年重ねて来らず      | 一六 |
| 切磋琢磨          | 一六 |
| 千金を賣う市あれど     | 一六 |
| 一文字を賣う店なし     | 一六 |
| 千羊の皮は一狐の腋に如かず | 一六 |
| 多岐亡羊          | 一六 |
| 他山の石          | 一六 |
| 玉琢かざれば器を成さず   | 一六 |
| 玉磨かざれば光なし     | 一六 |
| 断機の戒め         | 一六 |
| 付け焼き刃はなまり易い   | 一六 |
| 堂に升りて室になららず   | 一六 |
| 問うは一旦の恥       | 一六 |
| 問わぬは末代の恥      | 一六 |
| 桃李門に満つ        | 一六 |

|                |    |
|----------------|----|
| 桃李言わざれども       | 一六 |
| 下自ら蹊を成す        | 一六 |
| 讀書百遍義自ら見る      | 一六 |
| 富は一生の宝智は万代の宝   | 一六 |
| 屠竜の技           | 一六 |
| 習うより慣れる        | 一六 |
| 習わぬ経は読めぬ       | 一六 |
| 非徒書論に負けず       | 一六 |
| 一人の文殊より三人のたくらだ | 一六 |
| 放きを温めて新しきを知る   | 一六 |
| ペンは剣よりも強し      | 一六 |
| 亡羊の嘆           | 一六 |
| 学びて思わざれば則ち閑し   | 一六 |
| 学ぶ門に書来る        | 一六 |
| 学ぶ者は牛毛の如く      | 一六 |
| 成る者は鱗角の如し      | 一六 |
| 学べば則ち固ならず      | 一六 |
| 水到りて渠成る        | 一六 |
| 孟母三遷           | 一六 |
| 門前の小僧習わぬ経を読む   | 一六 |
| 六十の手習い         | 一六 |
| 論語読みの論語知らず     | 一六 |
| 我を非として當う者は     | 一六 |
| 吾が師なり          | 一六 |
| 過去・未来          | 一六 |
| 朝に夕べを謀らぬ       | 一六 |
| 朝夕べに及ばず        | 一六 |
| 嵐の前の静けさ        | 一六 |
| 一葉落ちて天下の秋を知る   | 一六 |
| 一寸先は闇          | 一六 |
| 鬼が出るか蛇が出るか     | 一六 |
| 既往は咎めず         | 一六 |

|                |    |
|----------------|----|
| 昨日は今日の昔        | 一六 |
| 後生が大事          | 一六 |
| 山雨来らんと欲して風楼に満つ | 一六 |
| 春秋に奮む          | 一六 |
| 死んだ子の年を数える     | 一六 |
| 来年のことを言えば鬼が笑う  | 一六 |
| 危険             | 一六 |
| 雨垂れは三途の川       | 一六 |
| 板子一枚下は地獄       | 一六 |
| 嵐の前の塵          | 一六 |
| 火中の栗を拾う        | 一六 |
| 腐り繩に馬繋ぐ        | 一六 |
| 唇亡びて齒寒し        | 一六 |
| 君子危うきに近寄らず     | 一六 |
| 香餌の下必ず死魚あり     | 一六 |
| 虎穴に入らずんば虎子を得ず  | 一六 |
| 虎口を脱する         | 一六 |
| 虎口を逃れて竜穴に入る    | 一六 |
| 炬燵で河豚汁         | 一六 |
| 死中に活を求める       | 一六 |
| 焦眉の急           | 一六 |
| 瀬を踏んで淵を知る      | 一六 |
| 千里の野に虎を放つ      | 一六 |
| 鳥鵲の急           | 一六 |
| 錨船の急           | 一六 |
| 虎の尾を踏む         | 一六 |
| 虎を野に放つ         | 一六 |
| 猫で火に入る夏の虫      | 一六 |
| 狸の額にある物を鼠が窺う   | 一六 |
| 薄氷を履む          | 一六 |
| 風前の灯火          | 一六 |
| 河豚にもあたらば鯛にもあたる | 一六 |

|                |    |
|----------------|----|
| 釜中の魚           | 一六 |
| 降り懸かる火の粉は      | 一六 |
| 払わねばならぬ        | 一六 |
| 両刃の劍           | 一六 |
| 竜の鬚を撫で虎の尾を踏む   | 一六 |
| 果卵の危うき         | 一六 |
| 期待・落胆          | 一六 |
| 愛想も小想も尽き果てる    | 一六 |
| 開けて悔しき玉手箱      | 一六 |
| 当てごとに向こうから外れる  | 一六 |
| 案じるより芋汁        | 一六 |
| 大骨折って塵の餌食      | 一六 |
| 籠の鳥雲を慕う        | 一六 |
| 宝の山に入りながら空しく帰る | 一六 |
| 捕らぬ狸の皮算用       | 一六 |
| 願ったり叶ったり       | 一六 |
| 棒ほど願って針ほど叶う    | 一六 |
| 名物に旨い物なし       | 一六 |
| 喜怒哀楽           | 一六 |
| 怒りは敵と思え        | 一六 |
| 怒りを遷さず         | 一六 |
| 怒れる拳笑顔に当たらず    | 一六 |
| 命の洗濯           | 一六 |
| 今鳴いた鳥がもう笑う     | 一六 |
| 怒み背中に入る        | 一六 |
| 鬼の目にも涙         | 一六 |
| 堪忍袋の緒が切れる      | 一六 |
| 堪忍袋の緒が切れる      | 一六 |
| 欽差極まりて哀情多し     | 一六 |
| 紀慶             | 一六 |
| 錦上花を添える        | 一六 |



|               |    |             |    |
|---------------|----|-------------|----|
| 釣り合わぬは不縁の元    | 二五 | 律義者の子沢山     | 四三 |
| 亭主閑白の位        | 二五 | 破れ鍋に綴じ蓋     | 四三 |
| 亭主の好きな赤鳥帽子    | 二五 | 健康・病氣       | 四三 |
| 亭主を尻に敷く       | 二五 | 青葉は目の薬      | 四三 |
| 貞女は両夫に見えず     | 二五 | 垢も身の目       | 四三 |
| 天に在らば比翼の鳥     | 二五 | 諦めは心の養生     | 四三 |
| 地に在らば連理の枝     | 二五 | 医者の不養生      | 四三 |
| 内助の功          | 二五 | 一に看病二に薬     | 四三 |
| 仲人は育の中        | 二五 | 起きて働く果報者    | 四三 |
| 似た者夫婦         | 二五 | 鬼の雷乱        | 四三 |
| 女房鉄砲仏法        | 二五 | 親が死んでも食休み   | 四三 |
| 女房と畳は新しい方がよい  | 二五 | 風邪は百病の因     | 四三 |
| のけば他人         | 二五 | 薬より養生       | 四三 |
| 蚤の夫婦          | 二五 | 健康は富に優る     | 四三 |
| 一人口は食えぬ       | 二五 | 健全なる精神は     | 四三 |
| 夫婦喧嘩は犬も食わぬ    | 二五 | 健全なる身体に宿る   | 四三 |
| 夫婦喧嘩もないから起こる  | 二五 | 才子多病        | 四三 |
| 夫婦は合わせ物離れ物    | 二五 | 采薪の憂い       | 四三 |
| 夫婦は他人の集まり     | 二五 | 節寒足熱        | 四三 |
| 夫婦は二世         | 二五 | 頭寒足熱        | 四三 |
| 覆水盆に返らず       | 二五 | 二監          | 四三 |
| 夫唱婦隨          | 二五 | 早寝早起き病知らず   | 四三 |
| 夫ついでより女房      | 二五 | 人には飽かぬが病に飽く | 四三 |
| 篋増しは果報持ち      | 二五 | 負薪の憂い       | 四三 |
| 婿取り天井なし       | 二五 | 蒲柳の質        | 四三 |
| 婿は座敷から貰え      | 二五 | 病膏肓に入る      | 四三 |
| 嫁は庭から貰え       | 二五 | 病上手に死に下手    | 四三 |
| 雌鶏歌えば家滅ぶ      | 二五 | 病治りて医師忘る    | 四三 |
| 雌鶏につつかれて時をうたう | 二五 | 病は氣から       | 四三 |
| 元の箱へ収まる       | 二五 | 良い内から養生     | 四三 |
| 落花枝に上り難し      | 二五 | 幸・不幸        | 四三 |
| 破鏡再び照らさず      | 二五 |             | 四三 |

|               |    |             |    |
|---------------|----|-------------|----|
| 網網で鯨捕る        | 二五 | 一寸の虫にも五分の魂  | 四三 |
| 鰯は糾える縄の如し     | 二五 | 燕雀安んぞ       | 四三 |
| 鰯は福無し唯人の召く所   | 二五 | 鰯の志を知らんや    | 四三 |
| 大吉は凶に還る       | 二五 | 志有る者は事竟に成る  | 四三 |
| 欠慮は鰯の門戸なり     | 二五 | 志は木の葉に包め    | 四三 |
| 残り物に福がある      | 二五 | 少年よ大志を抱け    | 四三 |
| 人を呪わば穴二つ      | 二五 | 青雲の志        | 四三 |
| 冬来りなば春遠からじ    | 二五 | 大行は細塵を顧みず   | 四三 |
| 冬来りなば果報の基     | 二五 | 図南の翼        | 四三 |
| 柳の下にいつも泥鰌は居らぬ | 二五 | 花は折りたし梢は高し  | 四三 |
| 開夜に提灯         | 二五 | 棒はど願って針ほど叶う | 四三 |
|               | 二五 | 凌雲の志        | 四三 |

|              |    |             |    |
|--------------|----|-------------|----|
| 空き樽は音が高い     | 二五 | 志           | 四三 |
| 言いたいことは明日言え  | 二五 | 一寸の虫にも五分の魂  | 四三 |
| 言うは易く行うは難し   | 二五 | 燕雀安んぞ       | 四三 |
| 一萬千里         | 二五 | 鰯の志を知らんや    | 四三 |
| 大の遠吠え        | 二五 | 志有る者は事竟に成る  | 四三 |
| 言わぬが花        | 二五 | 志は木の葉に包め    | 四三 |
| 言わぬは言うに優る    | 二五 | 少年よ大志を抱け    | 四三 |
| 因果を含める       | 二五 | 青雲の志        | 四三 |
| 売り言葉に買い言葉    | 二五 | 大行は細塵を顧みず   | 四三 |
| 鰯返し          | 二五 | 図南の翼        | 四三 |
| 大風呂敷を広げる     | 二五 | 花は折りたし梢は高し  | 四三 |
| 奥歯に衣を着せる     | 二五 | 棒はど願って針ほど叶う | 四三 |
| 奥歯を物が挟まる     | 二五 | 凌雲の志        | 四三 |
| 尾鰭を付ける       | 二五 |             | 四三 |
| 思うこと言わねば腹ふくる | 二五 |             | 四三 |
| 咳唾珠を成す       | 二五 |             | 四三 |
| 怪力乱神を語らず     | 二五 |             | 四三 |
| 顧みて他を言うに目あり  | 二五 |             | 四三 |
| 諫言耳に逆らう      | 二五 |             | 四三 |
| 聞く上手の話し下手    | 二五 |             | 四三 |
| 開きは法楽        | 二五 |             | 四三 |
| 雄も鳴かずば撃たれまい  | 二五 |             | 四三 |
| 金の茶釜が七つある    | 二五 |             | 四三 |
| 口から出れば世間     | 二五 |             | 四三 |
| 口自慢の仕事下手     | 二五 |             | 四三 |
| 口三味線に乗せる     | 二五 |             | 四三 |
| 口では大阪の城も建つ   | 二五 |             | 四三 |
| 口と財布は締めるが得   | 二五 |             | 四三 |
| 口には閑所がない     | 二五 |             | 四三 |
| 口に蜜有り腹に剣有り   | 二五 |             | 四三 |

口は禍の門……………三六  
君子は交わり絶ゆとも……………三六  
惡声を出さず……………三六  
響致に接す……………三六  
懸河の弁……………三六  
賢者は長い耳と短い舌を持つ……………三六  
巧言令色鮮し仁……………三六  
口角泡を飛ばす……………三六  
御託を並べ……………三六  
言伝は荷にならぬ……………三六  
言葉多きは品少なし……………三六  
言葉は国の手形……………三六  
言葉は心の使い……………三六  
言語道断……………三六  
沙中の偶語……………三六  
三寸の舌に五尺の身を亡ぼす……………三六  
歯牙にもかけない……………三六  
地獄耳……………三六  
獅子吼……………三六  
地蔵は言わぬが我言うな……………三六  
舌の剣は命を断つ……………三六  
舌の根も乾かぬ内……………三六  
驢馬も追う能わす……………三六  
衆口金を鏗す……………三六  
衆口は禍福の門……………三六  
衆大日に吠ゆ……………三六  
知る者は言わす言う者は知らず……………三六  
寸鉄人を殺す……………三六  
大声は里耳に入らず……………三六  
大弁は訥なるが若し……………三六  
竹屋の火事……………三六  
立て板に水……………三六  
多弁に能なし……………三六

男子の一言金鉄の如し……………三六  
治を為すは多言に在らず……………三六  
手八丁口八丁……………三六  
椽大の筆……………三六  
天に口なし人を以て言わしむ……………三六  
唐人の寝言……………三六  
唐人に落ちず語るに落ちる……………三六  
問うに落ちず語るに落ちる……………三六  
鳥の將に死なんとする……………三六  
其の鳴くや哀し……………三六  
長口上は欠伸の種……………三六  
鳴く猫は鼠を捕らぬ……………三六  
詭は国の手形……………三六  
西と言ったら東と悟れ……………三六  
二度聞いて一度物言え……………三六  
二の句が継げぬ……………三六  
二枚舌を使う……………三六  
抜かぬ太刀の高名……………三六  
能なしの口叩き……………三六  
吐いた唾は呑めぬ……………三六  
吐いた唾を呑む……………三六  
箱根知らずの江戸話……………三六  
話し上手の聞き下手……………三六  
話し上手は聞き上手……………三六  
話半分腹八分……………三六  
歯に衣着せず……………三六  
早合点の早忘れ……………三六  
半畳を足……………三六  
人の嘘は我が嘘……………三六  
人の噂も七十五日……………三六  
人の口に戸はたてられぬ……………三六  
人の將に死なんとする……………三六  
其の言や善し……………三六  
人を誘ふは鴨の味……………三六

人を以て言を廃せず……………三六  
雲雀の口に鳴子……………三六  
武士に二言はない……………三六  
下手の長談義……………三六  
吠えつく犬は噛みつかぬ……………三六  
寝て千人悪口万人……………三六  
寝める人には油断すな……………三六  
法螺と喇叭は大きく吹け……………三六  
負け惜しみの減らず口……………三六  
丸い卵も切りようで四角……………三六  
右の耳から左の耳……………三六  
身知らずの口叩き……………三六  
物言えは唇寒し秋の風……………三六  
物も言い残せ葉は食い残せ……………三六  
物も言いようで角が立つ……………三六  
病は口より入り禍は口より出ず……………三六  
雄弁は銀沈黙は金……………三六  
繪言汗の如し……………三六  
禍は口から……………三六

# 困難・容易

針の筵……………三六  
火を以て火を救う……………三六  
袋の鼠……………三六  
弁慶の立ち往生……………三六  
歳 月……………三六  
光陰矢の如し……………三六  
歳月人を持たず……………三六  
山中舊日無し……………三六  
三年経てば三つになる……………三六  
少年老い易く学成り難し……………三六  
月日変われば氣も変わる……………三六  
月日に閑守なし……………三六  
白駒の隙を過ぐるが若し……………三六  
待たぬ月日は経ち易い……………三六  
ローマは一日にして成らず……………三六  
石を抱きて淵に入る……………三六  
一難去つてまた一難……………三六  
楽屋から火を出す……………三六  
昨日は人の身今日は我が身……………三六  
霜を履んで望水至る……………三六  
前門に虎を抱き後門に狼を進む……………三六  
池魚の殃……………三六  
虎を養つて患いを遺す……………三六  
内憂外患……………三六  
泣き面に蜂……………三六  
人の十難より我が一難……………三六  
火を避けて水に陥る……………三六  
藪をつついて蛇を出す……………三六  
開夜の蝶……………三六  
弱り目に祟り目……………三六

才能

後の雁が先になる……………三  
いずれ菖蒲か杜若……………四  
一日の長……………四  
一を聞いて十を知る……………四  
一を識りて二を知らず……………五  
一騎当千……………五  
一藤を輪す……………五  
一頭地を抜く……………五  
独活の太木……………五  
緑の下の方持ち……………五  
王侯将相寧んぞ種あらんや……………六  
大男総身に知恵が回りかね……………七  
陸に上がった河童……………七  
及ばぬ狸の滝登り……………七  
驥足を展ぶ……………七  
玉石混淆……………八  
麒麟児……………八  
驥をして鼠を捕らしむ……………八  
腐っても鯛……………八  
孔雀は羽ゆえ人に獲らる……………九  
癖ある馬に能あり……………九  
紅は園生に植えても隠れなし……………九  
君子は器ならず……………九  
薫は香を以て自ら焼く……………九  
鶏群の一鶏……………九  
兄たり難く弟たり難し……………九  
芸は身の代……………九  
芸は身を助ける……………九  
桂馬の高上がり……………九  
弘法は筆を遣はず……………九  
蝙蝠も鳥の内……………九

氷は水より出でて水よりも寒し……………一  
才余りありて識足らず……………一  
雑魚の小魚交じり……………一  
山椒は小粒でもびりりと辛い……………一  
死せる孔明生ける仲達を走らす……………一  
七歩の才……………一  
蛇は寸にして人を呑む……………一  
出藍の蓍れ……………一  
白羽の矢が立つ……………一  
好きこそ物の上手なれ……………一  
梅樫は双葉より芳し……………一  
千里の皮は一狐の腋に如かず……………一  
伯樂は常に有れども……………一  
其の右に出ずる者無し……………一  
大器晩成……………一  
大根を正宗で切る……………一  
宝の持ち腐れ……………一  
多芸は無芸……………一  
直木先ず伐らる……………一  
出る杭は打たれる……………一  
頭角を見す……………一  
十で神童十五で才子……………一  
二十過ぎればただの人……………一  
時に遇えば鼠も虎になる……………一  
驚馬十親……………一  
団栗の背比べ……………一  
生る木は花から違ふ……………一  
何でも来いに名人なし……………一  
二卵を以て干城の将を棄つ……………一  
鶏をして夜を司らしめ……………一  
狸をして鼠を執らしむ……………一  
能ある鷹は爪を隠す……………一

囊中の鏝……………一  
能なし日は昼吠える……………一  
能なしの口叩き……………一  
馬鹿と鉄は使いよう……………一  
掃き溜めに鶴……………一  
八細……………一  
白眉……………一  
百端……………一  
万卒は得易く一将は得難し……………一  
万縁叢中紅一点……………一  
人各々能あり不能有り……………一  
百芸は一芸の精しきに如かず……………一  
下手があるので上手が知れる……………一  
下手な鉄砲も数撃てば当たる……………一  
下手の考え休むに似たり……………一  
下手の道具調べ……………一  
下手の長糸上手の小糸……………一  
下手の横好き……………一  
実の生る木は花から知れる……………一  
無芸大食……………一  
野に遺賢無し……………一  
藪医者病人人遊び……………一  
良工は人に示すに朴を以てせず……………一  
瑠璃も玻璃も照らせば光る……………一  
老驥驥に伏す……………一

自戒

仇も情けも我が身より出る……………一  
息の臭きは主知らず……………一  
易者身の上知らず……………一  
己の頭の蠅を追え……………一  
己を以て人を量る……………一  
近くて見えぬは睫……………一  
爾に出ずるものは爾に反る……………一  
人に七癖我が身に八癖……………一  
人の一寸我が一尺……………一  
人の七難より我が十難……………一  
人の蠅を追うより……………一  
自分の頭の蠅を追え……………一  
人のふり見て我がふり直せ……………一  
人をして鏡と為す……………一  
日に三たび身を省みよ……………一  
平家を滅ぼすは平家……………一  
我が身を抓つて人の痛さを知れ……………一  
しつけ……………一  
折檻……………一  
矯めるなら若木のうち……………一  
二度教えて一度叱れ……………一  
のろまの一寸馬鹿の三寸……………一  
箸より重い物を持たない……………一  
三つ子の魂百まで……………一  
孟母三遷……………一  
自慢・謙讓……………一  
驕のなき間の貂の誇り……………一  
上見ぬ驚……………一  
鉛刀の一割……………一  
鬼の首を取ったよう……………一  
お山の大将俺一人……………一  
上に交わりて詭わす……………一  
下に交わりて驕らず……………一  
喬木は風に折らる……………一  
細工は流々仕上を御覧じろ……………一  
細工は流々仕上を御覧じろ……………一  
自画自賛……………一  
自慢高慢馬鹿のうち……………一  
自慢の糞は犬も食わぬ……………一

自慢は知恵の行き止まり……………一六九  
 駿足長阪を思う……………一七〇  
 雪駄の土用干し……………一七〇  
 手前味噌……………一七〇  
 鳥なき里の蝙蝠……………一七〇  
 卑下も自慢の内……………一七〇  
 百姓の泣き言と医者の手柄話……………一七〇  
 自ら卑うすれば尚し……………一七〇  
 藪医者の手柄話……………一七〇  
 良買は深く蔵して虚しきが若し……………一七〇  
 宗教・信仰……………一七〇  
 鯛の頭も信心から……………一七〇  
 牛に引かれて善光寺詣り……………一七〇  
 供養より施行……………一七〇  
 苦しい時の神頼み……………一七〇  
 事ある時は仏の足を戴く……………一七〇  
 釈迦に宗旨なし……………一七〇  
 宗旨の争い釈迦の恥……………一七〇  
 信心過ぎて極楽を通り越す……………一七〇  
 信心は徳の余り……………一七〇  
 尊い寺は門から知れる……………一七〇  
 天道人を殺さず……………一七〇  
 商売……………一七〇  
 商い三年……………一七〇  
 商いは牛の涎……………一七〇  
 商人と屏風は直ぐには立たぬ……………一七〇  
 商人の空誓文……………一七〇  
 商人の元値……………一七〇  
 商人は損していつか倉が建つ……………一七〇  
 風が吹けば桶屋が儲かる……………一七〇  
 薬九層倍……………一七〇

テーマ別索引

紺屋の明後日……………一七〇  
 紺屋の白袴……………一七〇  
 呉服五層倍薬九層倍……………一七〇  
 三代続けば末代続く……………一七〇  
 土族の商法……………一七〇  
 商売は道によって賢し……………一七〇  
 創業は易く守成は難し……………一七〇  
 損して得取れ……………一七〇  
 損せぬ人に儲けなし……………一七〇  
 大工の拙立……………一七〇  
 問屋の只今……………一七〇  
 暖簾を分ける……………一七〇  
 餅は餅屋……………一七〇  
 安からう悪からう……………一七〇  
 勝負……………一七〇  
 負……………一七〇  
 相手のない喧嘩はできぬ……………一七〇  
 一騎当千……………一七〇  
 一敗地に塗れる……………一七〇  
 佚を以て労を待つ……………一七〇  
 夷を以て夷を制す……………一七〇  
 内兜を見透かす……………一七〇  
 枝を伐りて根を枯らす……………一七〇  
 江戸の敵を長崎で討つ……………一七〇  
 遠交近攻……………一七〇  
 会稽の恥……………一七〇  
 鯨牛角上の争い……………一七〇  
 火牛の計……………一七〇  
 刀折れ矢尽きる……………一七〇  
 勝つて兜の緒を締めよ……………一七〇  
 勝つて兜けるも時の運……………一七〇  
 勝つてば官軍……………一七〇  
 胃を脱ぐ……………一七〇

彼を知り己を知れば……………一七〇  
 百戦殆うからず……………一七〇  
 皮を切らせて肉を切り……………一七〇  
 肉を切らせて骨を折る……………一七〇  
 危急存亡の秋……………一七〇  
 機先を制する……………一七〇  
 窮鼠猫を囓む……………一七〇  
 漁夫の利……………一七〇  
 群羊を駆りて猛虎を攻む……………一七〇  
 喧嘩過ぎての空威張り……………一七〇  
 喧嘩過ぎての棒千切り……………一七〇  
 喧嘩両成敗……………一七〇  
 乾坤一擲……………一七〇  
 大鬼の争い……………一七〇  
 吳越同舟……………一七〇  
 小男の腕立て……………一七〇  
 黒白を争う……………一七〇  
 碁で負けたら将棋で勝て……………一七〇  
 三十六計逃げるに如かず……………一七〇  
 四面楚歌……………一七〇  
 弱肉強食……………一七〇  
 衆寡敵せず……………一七〇  
 柔能く剛を制す……………一七〇  
 雄雄を決す……………一七〇  
 勝負は時の運……………一七〇  
 相撲に負けて妻の顔打つ……………一七〇  
 力山を抜き氣は世を蓋う……………一七〇  
 血で血を洗う……………一七〇  
 中原に鹿を逐う……………一七〇  
 敵は本能寺にあり……………一七〇  
 手のない将棋は負け将棋……………一七〇  
 天下分け目……………一七〇

天の時は地の利に如かず……………一七〇  
 蜂蟻の斧……………一七〇  
 逃げるが勝ち……………一七〇  
 敗軍の将は兵を語らず……………一七〇  
 背水の陣……………一七〇  
 謀は密なるを貴ぶ……………一七〇  
 風林火山……………一七〇  
 兵強ければ則ち滅ぶ……………一七〇  
 兵は詭道なり……………一七〇  
 兵は凶器……………一七〇  
 兵は神速を貴ぶ……………一七〇  
 兵は猶火の如し……………一七〇  
 暴を以て暴に易う……………一七〇  
 負けるが勝ち……………一七〇  
 八百長……………一七〇  
 弓折れ矢尽く……………一七〇  
 竜虎相搏つ……………一七〇  
 処世……………一七〇  
 挨拶は時の氏神……………一七〇  
 諦めは心の養生……………一七〇  
 浅い川も深く流れ……………一七〇  
 明日は明日の風が吹く……………一七〇  
 危ないことは怪我のうち……………一七〇  
 危ない橋を渡る……………一七〇  
 言いたいことは明日言え……………一七〇  
 怒りは敵と思え……………一七〇  
 怒りを遷さず……………一七〇  
 石橋を叩いて渡る……………一七〇  
 一寸の光陰軽んずべからず……………一七〇  
 うかうか三十きよろきよ四十……………一七〇  
 浮世渡らば豆腐で渡れ……………一七〇  
 遠慮は無沙汰……………一七〇



細工は流々仕上げを御覧じろ……一六  
才子才に倒れる……一六  
猿も木から落ちる……一六  
失敗は成功の因……一七  
沙弥から長老……一八  
小忍ばざれば則ち大謀を乱る……一八  
上手の手から水が漏る……一九  
小の虫を殺して大の虫を助ける……一九  
成功の下久しく処るべからず……二〇  
急いで事を仕損じろ……二〇  
前車の覆るは後車の戒め……二〇  
前車の轡を踏む……二〇  
千慮の一失……二〇  
草履はき際で仕損じろ……二一  
宝の山に入りながら空しく帰る……二一  
提灯持ち川へはまる……二一  
鳶に油揚げを攫われる……二二  
七転び八起き……二二  
生兵法は大怪我の元……二二  
逃がした魚は大きい……二三  
錦を衣て郷に還る……二三  
錦を衣て夜行くが如し……二三  
二兎を追う者は一兎をも得ず……二三  
二の舞を演じる……二三  
抜け駆けの功名……二四  
馬鹿の一念……二四  
謀婦人に及ぶ……二四  
破天荒……二五  
火消しの家にも火事……二五  
一口物に頬を焼く……二五  
人のふり見て我がふり直せ……二五  
人を射んとせば先ず馬を射よ……二五  
百発百中……二五

覆水盆に返らず……二五  
臍を噛む……二五  
身から出た錆……二五  
味噌を付ける……二五  
身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ……二五  
藪をつついて蛇を出す……二五  
有終の美……二五  
油断大敵……二五  
用心に怪我なし……二五  
善く遊ぶ者は溺る……二五  
喜んで尻餅をつく……二五  
割った茶碗を接いでみる……二五

# 生 死

生き身は死に身……二五  
医者が取るか坊主が取るか……二五  
命あつての物種……二五  
命長ければ恥多し……二五  
門松は冥土の旅の一里塚……二五  
九死に一生を得る……二五  
死に花を咲かす……二五  
死に別れより生き別れ……二五  
死人に口なし……二五  
死ぬ者貧乏……二五  
死ぬる子は眉目よし……二五  
死は或は泰山より重く……二五  
或は鴻毛より軽し……二五  
士は己を知る者の為に死す……二五  
死んだ子の年を数える……二五  
死んで花実が咲くものか……二五  
末の露本の筆……二五  
生は難く死は易し……二五

# 賀沢・俊約

一文惜しみの百知らず……二五  
一粒万倍……二五  
一銭を笑う者は一銭に泣く……二五  
栄耀の餅の皮……二五  
騙る平家は久しからず……二五  
奢る者は心筈に貧し……二五  
下戸の建てた蔵はない……二五  
儉約とけは水仙と葱……二五  
米を数えて炊く……二五  
呑ん坊の柿の種……二五  
塵も積もれば山となる……二五

# 世 間

悪事千里を行く……二五  
一大影に吹ゆれば百犬声に吠ゆ……二五  
井の中の蛙大海を知らず……二五  
有為転変は世の習い……二五  
浮世は回り持ち……二五

# 節 度

蟹は甲羅に似せて穴を掘る……二五  
薬も過ぎれば毒となる……二五  
君子は強りを慎む……二五  
小馬の朝服……二五  
過ぎたるは猶及ばざるがごとし……二五

|                |    |              |    |              |    |             |    |
|----------------|----|--------------|----|--------------|----|-------------|----|
| 悪に強ければ善にも強い    | 三三 | 善悪は友に依る      | 三三 | 食塵夾ちて團圓空し    | 三三 | 沽券に關わる      | 三三 |
| 惡の報いは針の先       | 三三 | 善惡は友を見よ      | 三五 | 罪を憎んで人を憎まず   | 二五 | 米の飯に骨       | 三三 |
| 頭隠して尻隠さず       | 三三 | 善に強い者は惡にも強い  | 三七 | 天に唾す         | 二五 | 衣たけては和尚になれぬ | 三三 |
| 頭の黒い鼠          | 三三 | 善は急げ         | 三八 | 天網恢々疎にして漏らさず | 二五 | 猿に烏帽子       | 三三 |
| 惡貨は良貨を駆逐する     | 三三 | 大森は忠に似たり     | 三六 | 毒食わば血まで      | 二五 | 笑中に刀有り      | 三三 |
| 網吞舟の魚を漏らす      | 三三 | 腹は飢えても徳を摘まず  | 三六 | 泣いて馬渡を斬る     | 二五 | 頭巾と見せて頓冠り   | 三三 |
| 家に鼠因に盗人        | 三三 | 寺の隣に鬼が棲む     | 三六 | 濡れ衣を着る       | 二五 | 世間は張り物      | 三三 |
| 痛む上に塩を塗る       | 三三 | 毒食わば血まで      | 三六 | 花盗人は風流のうち    | 二五 | 伊達の薄着       | 三三 |
| 一難去つてまた一難      | 三三 | 毒を以て毒を制す     | 三七 | 伏せる牛に芥       | 二五 | 旅の恥は掻き捨て    | 三三 |
| 一難打尽           | 三三 | 憎まれっ子世に憚る    | 三七 |              | 二五 | 玉の匣当無きがごとし  | 三三 |
| 一難來復           | 三三 | 盗人猛々し        | 三九 | 体裁           | 二五 | 小さくとも針は吞まれぬ | 三三 |
| 稲荷の前の屋盗人       | 三三 | 盗人にも三分の理     | 三九 | 頭刺るより心を刺れ    | 二五 | 問うは一旦の恥     | 三三 |
| 因果応報           | 三三 | 盗人の隙はあれども    | 三九 | 命より名を惜しむ     | 二五 | 問わぬは未代の恥    | 三三 |
| 陰徳あれば陽報あり      | 三三 | 守り手の隙なし      | 三九 | 色氣より食い氣      | 二五 | 懷を買いて珠を還す   | 三三 |
| 海千山千           | 三三 | 盗人の昼寝        | 三九 | 内裸でも外錦       | 二五 | 似て非なる者      | 三三 |
| 同じ穴の貉          | 三三 | 猫糞を決め込む      | 三九 | 馬と武士は見かけによらぬ | 二五 | 恥の上塗り       | 三三 |
| 華胥の夢           | 三三 | 年貢の納め時       | 三九 | 遠慮ひだるし伊達寒し   | 二五 | 恥を知らねば恥がかず  | 三三 |
| 渴しても盗泉の水を飲まず   | 三三 | 火は火で治まる      | 三九 | 狼に衣          | 二五 | 花多ければ実少ない   | 三三 |
| 瓜田に履を納れず       | 三三 | 百鬼夜行         | 三九 | 星漏に愧じず       | 二五 | 薔薇に刺あり      | 三三 |
| 袂を着た盗人         | 三三 | 豚を盗んで骨を施す    | 三九 | 鬼瓦にも化粧       | 二五 | 日陰の梨        | 三三 |
| 勸善懲惡           | 三三 | 古傷は痛み見い      | 三九 | 鬼に衣          | 二五 | 人には添うてみよ    | 三三 |
| 鷄鳴狗盜           | 三三 | 瘦せ馬鞭を恐れず     | 三九 | 鬼の空念仏        | 二五 | 馬には乗つてみよ    | 三三 |
| 好事魔多し          | 三三 | 梁上の君子        | 三九 | 思い内にあれば色外に現る | 二五 | 人は見かけによらぬもの | 三三 |
| 好事も無きし如かず      | 三三 | 罪・罰          | 三九 | 蛙の面に水        | 二五 | 人は見まよいたた心   | 三三 |
| 好事門を出でず惡事千里を行く | 三三 | 越姐の罪         | 三九 | 隠れたるより見るるは莫し | 二五 | 武士は食わねど高橋枝  | 三三 |
| 洪柿の長保ち         | 三三 | 米食った大が叩かれず   | 三九 | 堀を被て玉を懐く     | 二五 | 馬子にも衣袋      | 三三 |
| 城狐社鼠           | 三三 | 鎌食った大が叩かれる   | 三九 | 下問を恥じず       | 二五 | 真綿に針を包む     | 三三 |
| 脛に疵あれば笹原走る     | 三三 | 皿嘗めた猫が科を負う   | 三九 | 看板倒れ         | 二五 | 見栄張るより顔張れ   | 三三 |
| 寸善尺魔           | 三三 | 地獄は壁一重       | 三九 | 郷原は徳の賊       | 二五 | 見かけばかりで空大名  | 三三 |
| 清濁併せ吞む         | 三三 | 賞は厚くし罰は薄くすべし | 三九 | 公卿にも権機       | 二五 | 山師の玄關       | 三三 |
| 積善の家には必ず余慶有り   | 三三 | 背を吸うても同罪     | 三九 | 臭い物に蓋        | 二五 | 羊頭を懸けて狗肉を売る | 三三 |
| 積善の家には必ず余慶有り   | 三三 | 青天白日         | 三九 | 毛を見て馬を相す     | 二五 | 藁苞に黄金       | 三三 |